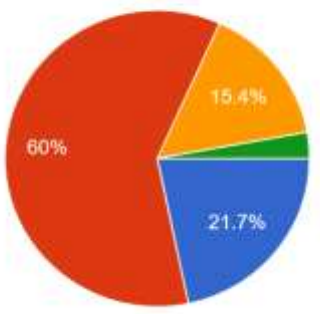
貴生川小学校5,6年生教科担任制アンケート結果【後期】

2023.2　分析：教頭

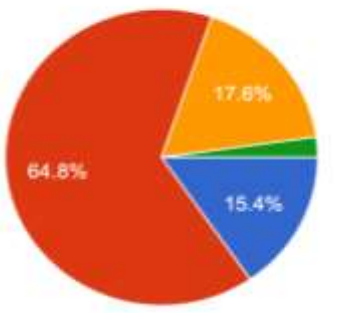
5,6年生児童

5,6年生保護者

授業にやる気を持って臨んでいる
175 件の回答

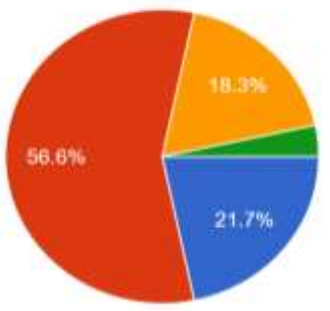


子どもは意欲的に学習に取り組んでいる
91 件の回答

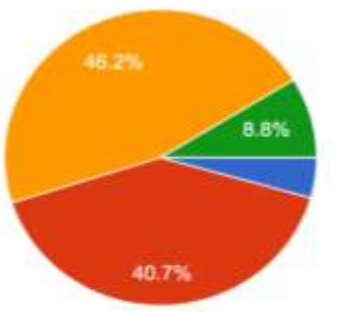


- とてもそう思う
- そう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

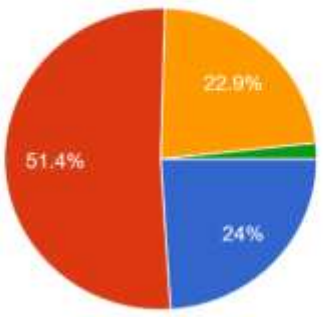
授業はよくわかる
175 件の回答



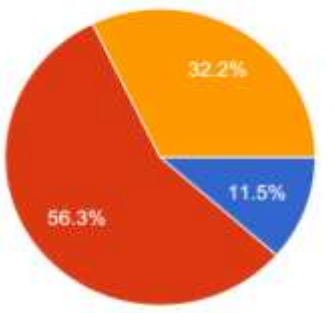
学習のことで子どもから話をすることが増えた
91 件の回答



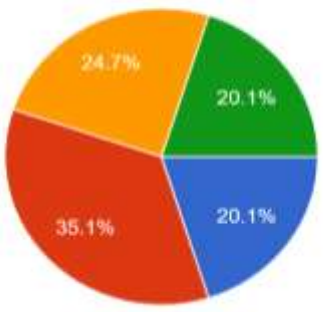
一つ一つの授業に気持ちを切り替えて臨んでいる
175 件の回答



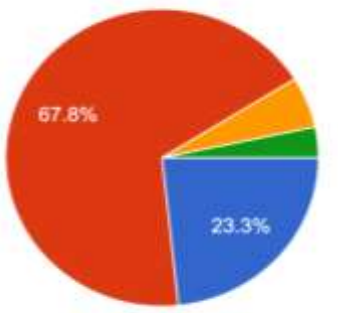
授業の切り替えにメリハリがつき、中学校への移行がスムーズになった
87 件の回答



学習や学校生活のことで相談できる先生が増えた
174 件の回答



様々な先生に関わってもらえている
90 件の回答



1　学習意欲や理解について
意欲：児童→82%　理解：児童→78%

・「授業がわかりやすい」「楽しい」「切り替えられる」など、2年目を終える段階でも教科担任制のよさを実感している児童が多い。
・保護者からは「より深い内容になるように先生方も努力してくださっているのでありがたい。」「専門的な知識を学べたり、先生の体験談など興味をもって授業に取り組んだりできている。」など、80%の肯定的評価をいただいた。
・担当教科をとおして、子どもが学ぶ楽しさを実感できる授業づくりに力を注ぎたい。

2　複数の教職員が関わることについて
児童→55%　保護者→91%

・「いろんな先生と相談しやすい。」「先生によって授業が楽しくなる。」「切り替えられる。」と肯定的に捉える児童がいる反面、担当教師との相性や、指導方法の違いにより、マイナス評価をする児童が半数近くいる。
・保護者は「様々な考えや方法に触れる機会になり、柔軟性にもつながればよいと思う。」「色々な先生に担当してもらい、良さを引き出してもらえる。」など、複数で多面的に子どもを理解できる教科担任制の仕組みに理解を寄せる回答がほとんどである。
・「以前より学級担任が児童を理解しづらくなったように感じる。」「生活面での指導もきちんとしてもらいたい。」などのご意見もある。担当教職員の多くは、相談したりチームで対応したりできるよさを実感している。「学年のすべての子どもの担任」の意識と、どの担当者も同じスタンスで生活面の指導をする意識を教職員でさらに共有し、実践していきたい。